

発寒ひかり
保育園だより

2021年
1月号

巻頭言

道端に空き缶。きりん（5歳児）組のお散歩中のことです。先を急いでいるからと、恥ずかしながら見て見ぬふりの私。そこに「なんでひろわないの、ごみおちてるよ」とK君の声。理由を付けて拾うのを諦めた自分が恥ずかしくなりました。子どもたちはゴミを見つけると「なんでこんなにごみがあるんだろう」「ちきゅうがないちゃうよね」と小さいゴミも見逃さず拾ってくれます。街を綺麗にしながら目的地まで向かう子どもたちの表情はとても晴れやかです。

ばんび（4歳児）組の頃から森や川など、自然に触れて楽しく遊ぶ機会をもち、生き物や自然の大切さ、環境問題について考える場をもってきました。「自分がやらなくても誰かがやってくれる」と他人事にするのではなく、一人一人が問題意識をもち、自分で考えて解決しようとする行動が自然とできるきりん組の子どもたちが、とても誇らしいです。

私自身も、プライベートでゴミ袋を持ち歩き、息子と一緒に拾うようになりました。自分たちの住む町、そして地球のために。自分ができることを考え、少しずつ取り組もうと思っています。

今年もさけの卵の飼育に取り組み始めました。初日からすでに愛情たっぷり。お世話したい気持ち溢れています。皆で育てる経験を通じて、さけの生態、自然や命の大切さなどを考えるきっかけにしていきたいと思います。

登降園の際は、ぜひ稚魚の様子をご家族でご覧ください。少しずつ成長する稚魚の様子を見ながら、色々なことに思いを巡らせるきっかけにいただけたら嬉しいです。

きりん組担任 専門サブリーダー 吉田 誠